

府立勤労者福祉会館あり方検討委員会第6回会議

- 1 日 時 令和6年7月30日(火) 13:25~14:30
- 2 場 所 京都ガーデンパレス 2階「祇園」
- 3 出席者 真山会長、上田委員、滋野委員、瀧田委員、長谷川委員、
原委員、水野委員、山本委員(以上8名)
- 4 概 要
山城、口丹波勤労者福祉会館のあり方や、最終報告書(案)について、意見交換を行った。
- 5 委員からの主な意見
 - 山城、口丹波会館については、体育振興により勤労を支えるという勤労者福祉のための体育館施設という側面が依然として認められることから、引き続き、府立勤労者福祉会館として位置づけることが適当。
 - 行政資源には限りがあることから、体育館のような公共施設を新たに設置することは不可能と思われるため、現在ある施設を有効活用いただきたい。
 - 近年では障害のある方の就労が増えており、多様な方が利活用できる施設運営を図るべき。
 - 勤労者世代の子育て支援や多世代の交流づくりなど、指定管理者や設置者の工夫で働く人を支援する取り組みを行っていただきたい。
 - 多世代に利用されている実態を踏まえ、府民施設としてより多くの方の利用促進に繋がられるよう分かりやすく、かつ、親しまれるような名称(愛称)について検討していただきたい。
 - 将来、建て替え等の時期を迎えたときに、勤労者福祉という観点で建て替えていくのか、地域のスポーツ振興という観点で建て替えていくのか議論していく必要がある。
 - 将来的に地域スポーツの振興拠点として位置づけるか否か考えるのもよいが、施設の老朽化が進んでいるため、利用者の安全のために、まずは小規模な修繕からでも対応を進めていただきたい。